

知識の花卉

三田メディアセンターだより

No.9
2017春



撮影：石戸 晋

図書館という 知的空間にあそぶ

知って良かった ツール＆サービス

資料の海に溺れる前に!

オリエンテーションで必要な知識を身につけよう

コレクションの広場

聊斎文庫

貴重書紹介

アダム・スミス『道徳感情論』

スタッフレポート

カルテを使った資料保存 — 西洋古典資料保存実務研修報告 —

図書館の舞台ウラ

ニオイのもとを絶てるか!? マイクロの点検作業

主な出来事 (2016.10-2017.3)

お知らせ



慶應義塾図書館



For Personals 独立自尊



5 2F 西閲覧室



6 1F レファレンスルーム

図書館という知的空間にあそぶ

学び研究する場として、多くの塾生に愛されてきた慶應義塾図書館。

一人ひとりのスタイルにあわせた空間で、思い思いの時間を過ごすことができます。

(写真1、4～9 撮影：新 良太)



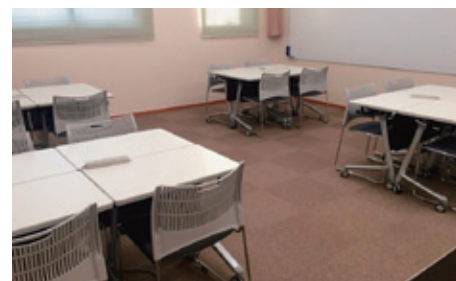
1 2F くじら椅子

For 学半教

- 1 勉強の合間に友人と語らう姿が見られるくじら椅子。
- 2 ディスカッションをしながらレファレンスライブラリアンに相談することもできるオリエンテーションエリア。
- 3 少人数でのグループ学習に人気の多目的学習室。
- 4 最大10名で利用できる、ゼミの準備に最適なセミナー室。



2 1F オリエンテーションエリア



3 1F 多目的学習室



4 3F セミナー室

- 5 隣で勉強する塾生の姿が集中力をさらに高めてくれる西閲覧室。
- 6 遠くに聞こえる人の声と大きな窓が心地よいレファレンスルーム。
- 7 足音さえ聞こえるような、静謐な閲覧席。
- 8 勉強の休憩にちょうどいい、高い天井が開放的なエリア。
- 9 知る人ぞ知る、人気エリアの地下書庫。



7 4F 閲覧席



8 3F ソファ



9 B5F キャレル

資料の海に溺れる前に！ オリエンテーションで必要な知識を身につけよう

三田メディアセンターでは、図書や雑誌を約276万冊所蔵しています。その他、データベース約170種、電子ジャーナル約11万タイトル、電子ブック34万タイトルなども利用できます。新しく三田に来たみなさんはこの膨大な資料の中から授業のレポート、ゼミの課題、卒論等に必要な資料をすばやく適切に探すことができるでしょうか？（なかなか難しいのでは？）

そんなみなさんをサポートするために、3種類のオリエンテーションを用意しています。これからの学習や論文執筆に先立ち、図書館の使い方や資料の探し方、データベースの使い方、引用の重要性と適切な引用方法などを学ぶ機会として、ぜひ役立ててください。

文献探索ツアー

所要時間 60～90分

ご希望のテーマに合わせたデータベースやレファレンスツールの紹介と、図書館ツアーがセットになったコースです。文献の探し方や図書館の様々なサービスについて案内します。

データベース体験講座

所要時間 60～90分

パソコン室にて、ご希望のデータベースの検索実習を行います。内容については希望に沿ってアレンジします。

引用・参考文献の基礎講座

所要時間 45分

引用と参考文献リスト作成の基本を説明する講座です。引用と剽窃の違い、引用の仕方、参考文献リストの作成、引用箇所と参考文献リストの対応について説明します。



実際のオリエンテーションの風景

各種オリエンテーションの申込みは1階レファレンスカウンターへ。ゼミやグループ単位でお申込みください。図書館ウェブサイト ライブラリー・オリエンテーション <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/orientation.html>

ゼミ単位で参加するオリエンテーションには、さらにお得な情報も！ 紹介した資料やデータベースを、ゼミごとにまとめたページがあります。いつでも参照できるので、後で復習するにも便利です。

図書館ウェブサイト ゼミ別基本資料

<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/search/zemi/index.html>



ゼミ別基本資料のページ例



聊 齋 文 庫

「『聊齋志異』コレクション 米国へ流出の寸前
ポンと美拳の百万円」。これは昭和28年12月14日
の毎日新聞の記事です。

1930年代に中国・山東省に赴任した医師・平井
雅尾は、その土地の文人であり中国怪異小説の最高峰
『聊齋志異』の作者蒲松齡（1640-1715 聊齋は蒲松齡
の雅号・齋号）に興味を持ち、その子孫から遺稿や
写本等を収集しました。終戦直前、約500点の資料
を日本に持ち帰りましたが、当時の価格で100万円
という高額のため買い手がおらず、国立国会図書館
でさえ購入に踏み切れませんでした。国内での購入
がかなわずやむなく米国に渡る直前、慶應義塾大学
で教鞭をとっていた奥野信太郎教授が実業家の藤川
一秋に斡旋したところ藤川氏が個人で購入し、その
まま慶應義塾に寄付したのです。これが「聊齋文庫」
の中核になりました。

その後、中国文学研究室で少しずつ関連資料を
収集し、現在では約700点ものコレクションとなっ
ています。聊齋研究のための目録として「慶應義塾
所蔵聊齋関係資料目録」（『藝文研究』53号掲載）が
作成されており、全容を見ることができます。

2016年春から、それまで貴重書室で所蔵されて
きた47点を確認し、資料の内容に即して貴重書、
準貴重書、一般書に再分類する作業が始まりました。
斯道文庫の高橋智教授監修のもと、『蒲氏族譜』や
『聊齋草』などの蒲松齡の真筆やそれに準じるものを
貴重書とし、清代後期の写本を準貴重書、そのほか
清代末期から民国時代の写本や刊本を一般書に分類
しました。分類作業はとても難しく、いつ誰が書いた
ものか出自不明の写本は、紙の劣化具合を手がかり



に時代を特定しました。さらに当初からガラスケース
に入ったままの一枚ものの資料は紙の劣化が進んで
いたため、中性紙で保護し手当てを施しました。
データの遡及作業も進み、現在では資料の一部を除き、
KOSMOSでもほぼ検索できます。

歴史的に見て写本が残されない中国において、古典
文学で真筆が現存する蒲松齡に関連する資料の価値
は高く、それらを閲覧するために海外から研究者が
貴重書室を訪れています。

今からおよそ60年あまり前、慶應に寄贈された
コレクションをきっかけに、大きく成長したコレク
ションが今、多くの研究者を支えています。

（遠藤 泉）

「お宝」を所有しているだけでなく、資料を通じて
研究者同士の交流、知のつながりを生みだし、研究
活動に大きく寄与することこそ、メディアセンター
の使命と考えています。



道徳感情論

アダム・スミス 初版 ロンドン 1759年

Smith, Adam (1723-1790) *The theory of moral sentiments*
London : Printed for A. Millar, 1759. 1v.; 21 cm. [1103@240]

穂刈 享

(経済学部教授)

Adam Smith (1723-1790) は『国富論』(*An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*, 1776) の著者として有名ですが、1759年には『道徳感情論』(*The Theory of Moral Sentiments*) という本を書いています。スミスが亡くなる直前の1790年には大幅な改訂となった第6版が出版されています。スミス自身は、自分の主著は『国富論』ではなく『道徳感情論』のほうであると考えていたそうです。

私が担当している「専門外国書購読」という授業では、この『道徳感情論』を読んでいます。毎回というわけにはいきませんが、学期中の2回ほどは、図書館の貴重書室で、この本の初版本の実物を使って授業をしています。目の前に置かれた250年以上も前に出版された本を読んでいると、その質感といえますか、歴史を肌で感じるといえますか、学生さん達も(私も)ちょっと身が引き締まる思いがして、いい感じで授業が進んでいきます。

以下では、この本の内容を少しだけ紹介したいと思います。キーワードは

- 想像上の立場の交換
(imaginary change of situation)
- 共感 (sympathy)
- 公平な観察者 (impartial spectator)

の3つです。

ある人(A)が怒っているのを見た人(B)がそれを approve するプロセスをスミスは次のように説明します。まずBは、Aと「想像上の立場の交換」を行い、「自分がAと同じ状況にいたらどう感じるだろうか」と考えます。この時にBが感じる怒りの程度がAのそれとほぼ一致する状態を「BはAの怒りに共感できている」と言い表し、そのような場合に、BはAの怒りをそれを引き起こした原因に対して proper なものとして approve するのだ、というのがスミスの説明です。他の人の行動をその原因に対して proper なものとして approve したり、あるいは improper なものとして disapprove する際の基準は、「想像上の立場の交換」をした時に共感できると感じるかどうかだということです。

次に、ある人(A)の行動によって別の人(C)が損害を受けた場合の、「Aの行動が punishment に値するかどうか」についての観察者(B)の判断について考えます。スミスによれば、

- Aと想像上の立場の交換をしたときに、Aの行動を引き起こした感情と動機に共感できないと感じる、
- Cと想像上の立場の交換をしたときに、CのAに対する resentment に共感できると感じる、

という2つの条件が満たされた場合に、BはAの行動が punishment に値すると判断します。

同様に、Aの行動によってCが恩恵を受けた場合には、

- Aと想像上の立場の交換をしたときに、Aの行動を引き起こした感情と動機に共感できると感じる、
- Cと想像上の立場の交換をしたときに、CのAに対する gratitude に共感できると感じる、

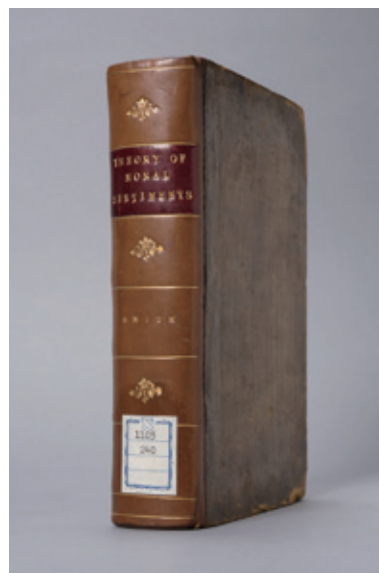
という2つの条件が満たされた場合に、BはAの行動がrewardに値すると判断します。その意味でこのような判断は二重の共感に基づいていると言えます。

自分自身の行動については、他の人の立場に身を置いてみて、いわばその人の目でその人の位置から自分の行動を見たとき、行動に影響した感情と動機に共感できると感じるか、できないと感じるかということが、自分自身の行動をapproveするかdisapprove

するかの基準となります。

しかしながら、スミスによれば、人間は現実の観察者からのpraiseを欲しblameを怖れるだけでなく、praiseに値すること (praise-worthiness) を欲しblameに値すること (blame-worthiness) を怖れるものです。そこで重要となってくるのが「公平な観察者 (impartial spectator)」の視点です。当事者でない、利害関係がないという意味でimpartialなspectatorが見るであろう視点で自分の行動を見ることで、自分の行動がpraise-worthyであるかどうか、blame-worthyであるかどうかを判断するのです。

以上のような枠組みを用いてスミスが様々な社会現象や「人間の本性」をどのように説明しているのかについては、『道徳感情論』を読んでいただけたらと思います。



豆知識

慶應義塾図書館では、明治以来古典派経済学の創始者と言われるアダム・スミスの著作を積極的に収集してきました。(自筆の手紙も所蔵しています!) 彼の著作として最も有名な『国富論』は初版以降異なる版やドイツ語やフランス語の翻訳版も所蔵しています。この『道徳感情論』は1759年に刊行されたアダム・スミスの処女作で、この著作も初版から12版まですべてを所蔵しています。今回紹介されたものは1971年に蔵書に加えられましたが、調べてみたところ、1960年10月に寄贈された故野村兼太郎氏(1896-1960)の旧蔵書8,156冊のうちの1冊であったことがわかりました。



カルテを使った資料保存

— 西洋古典資料保存実務研修報告 —

倉持 隆

(スペシャルコレクション担当)

みなさんは革装の洋書を手に取ったことがあるでしょうか。三田メディアセンターは貴重書をはじめとして、多くの革装の洋書を所蔵しています。洋書は革、ペラム（羊皮紙）、布、紙などいろいろな表装材で製本されますが、革やペラムは中世から近現代まで、西洋において多くの製本に利用されてきました。革装本は風格を感じさせますが、一方で表紙が分離したり、レッドロットと呼ばれる粉をふくような劣化が生じたりと、材質に適した資料保存対策が求められる資料でもあります。スペシャルコレクション担当が管理している貴重書室では主に17世紀以前の洋書を所蔵しており、その保存対策も重要な業務の一つとなっています。



書庫での劣化調査

研修について

今回私は11月7日から12月9日までの5週間、一橋大学社会科学古典資料センター（以下、古典資料センター）で実施された西洋古典資料保存実務研修に参加しました。本研修は、文部科学省共通政策課題の採択を受け、2016年度から3年計画で始まった「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の一環として実施されたものです。古典資料センターは国内で唯一の西洋古典資料に特化した研究図書館であり、国立大学として唯一館内に専用の貴重書保存修復工房（以下、修復工房）を持つ機関です。1995年に開設された修復工房（現在は3名のスタッフが交代で勤務）では、所蔵資料約8万点の保存対策を20年以上にわたって実施してきました。また、全国の大学図書館員に対して西洋古典資料やその保存に関する研修を継続的に実施しており、図書館の世界では誰もが知る存在です。今回受講した研修は、従来10名程度で行ってきた保存研修をより実務的なものとし、国内の大学図書館から長期にわたって1名の図書館員を受け入れ、その所属機関の実情に合わせたカリキュラムを設定して行われます。その研修内容は、保存修復の技術に加えて保存計画や保存環境整備の立案もできる人材の育成を目標としたもので、私は国立国会図書館、北海道大学附属図書館に続いて、3人目の受講者でした。

保存カルテについて

今回受講した最大の目的は、古典資料センターが実施している劣化調査の手法を学ぶことでした。その

基本となるのが保存カルテの作成です。これは洋書1冊ずつの保存状態を記録するシートで、記録された内容に応じて保存処方（中性紙による保存容器作成、表紙やページの修理、保革作業など）を考え、コレクション全体の保存計画立案のためのデータとします。「保存カルテを見れば資料の様子が目に浮かぶ」といわれるほど、本の構造・材料・劣化状況が詳しく記入されます。例えば「表紙」については、構造は「とじつけ」（本のページ部分と表紙のボードが麻ひも等によって綴付けられている形）、材料は表装が「総革」、表装材が「革」、芯材（表紙の中のボード部分）が「紙」といった具合に記録した上で、表紙と背の接続や表裏表紙の劣化状況を細かく記録します。保存カルテはシートに印刷された選択肢に○をつける形で記入しますが、洋書の製本構造を初めて本格的に学ぶ私にとっては、最初はかなり難易度が高い作業でした。

保存カルテの重要性

研修開始直後、「このように細かく専門的な作業は、スタッフ・設備が充実している古典資料センターであるからこそ可能な手法で、慶應では実施できないのではないかと不安が募りました。しかし、研修も2週目半ばになると、製本構造の理解も進み、次第に保存カルテの大切さがわかってきました。そして、この実習の重要性を痛感したのが研修最後に行った、まとまったコレクション全体の保存計画策定に対応した事前調査の実習の時でした。この実習は、劣化調査にあまり時間をかけられない場合に書架で行う簡易的な調査で、「時間をかけずにコレクション全体の劣化状況を知る手段はないか」という慶應が抱えている課題に対して、古典資料センターの方が考案してくださった手法でした。この調査は、書架で1点ずつ洋書を手にとり、劣化状況を3段階程度（すぐに保存処方が必要、余裕があれば処方、処方不要）に分類していきます。この調査では、速やかに劣化状況を判断しなければなりません、本のどの



劣化調査に用いる道具と保存カルテ

部分を見ればよいか、保存カルテの項目に直結していることに気づき、保存処方が必要な部分に自然と目が行くようになったのです。まさに保存カルテ実習を経験していなければできない作業であり、資料保存は多くの資料を見て経験を積むことが大切であると強く感じました。その意味で、今回の研修では最終的に古典資料センターの資料を300点以上見ることができ、大変貴重な経験をすることができました。

最後に

今回、温湿度管理や定期的な清掃も含め、正しい知識を学び、基本的な作業を地道に継続することが資料保存においては大切であると実感した研修でした。研修の成果を生かし、みなさんに少しでも良い状態で資料を利用していただけるよう、的確な保存対策を行っていきたくと考えています。

参考文献

古典資料センターにおける資料保存の取り組みは、次の文献で詳しく紹介されています。

増田勝彦・床井啓太郎・岡本幸治

「西洋古典資料の組織的保存のために〔改定版〕」（『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』64, 2010年）

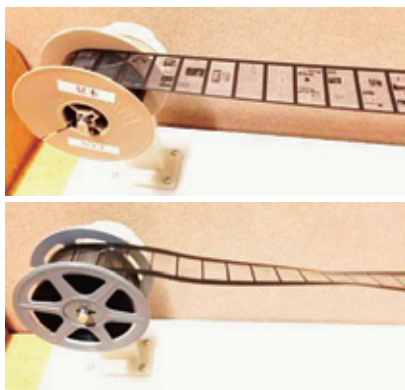
<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/18610/1/studys0640000010.pdf> (2016-03-03参照)



ニオイのもとを絶てるか!? マイクロの点検作業

10年ほど前、図書館内のあるエリアになんともいえない異臭が漂い始めました。まるで酢こんぶが大量にばらまかれたような臭い。その犯人は…マイクロフィルムでした。

マイクロフィルムとは、紙面を写真撮影し、約1/10～1/30に縮小してフィルムに焼き付けたものです。閲覧は専用のリーダー機器を使います。1930年代から図書館などで資料の代替保存手段として一般的になりました。マイクロフィルム登場時は100年以上の保存が可能と言われましたが、その後、セルローストリアセテート素材のものは高温多湿または密閉された環境下で急速に劣化が進むことが判明し、1990年前半に「ビネガーシンドローム」として問題になりました。現在のところ根本的な解決策はなく、劣化の発現もしくは進行を遅らせるしかありません。



マイクロフィルムリール（上：劣化なし 下：劣化あり）

三田メディアセンターでは歴史的に重要な文献や新聞など数多くの資料をマイクロフィルムで所蔵しています。その中の僅かではありますが劣化が激しいフィルムが発見されたため、地道に劣化防止作業を行っています。

地下4階にあるマイクロフィルムを一つ一つ保管用の箱から取り出し、3階のフィルムリーダーで別のロール芯に最後のコマまで巻き取り、再びもとのロール芯に巻き直しをします。フィルム面を空気に触れさせ、劣化の発現や進行を抑えることが目的で、同時にフィルム自体の点検や機械周りの確認も行っています。最初にやることはまず臭いをかぐこと。すっぱい臭いがしなければ一安心。臭いがわずかでフィルムに問題がない場合はとりあえずセーフ。状態を手元の記録用紙に記載したうえで巻き直し作業を進めます。

万一むせるような強い臭いがしたら、危険な状態です。そのまま放置するとフィルムが波打ち始めて使用できなくなり、しまいには乾燥わかめのように固く丸まってしまいます。このようになると、近くのフィルムの劣化も促進させるため隔離をし、マイクロまたは電子媒体で買いなおすことを検討します。

マイクロフィルムの利用申込みは多くはないもののコンスタントにありますので、将来にわたって長く使っていただけるよう、日々少しずつですがメンテナンスを続けていきます。（雑誌担当）



マイクロフィルムリーダー

主な出来事 (2016.10 - 2017.3)

第28回慶應義塾図書館貴重書展示会 「鏡花の書齋 — 「幻想」の生まれる場所 —」開催

2016年10月5日～11日、丸善・丸の内本店ギャラリーで開催されました。今回の主役は、幻想文学の先駆者泉鏡花。松村友視名誉教授をはじめとする監修者の尽力で、『草迷宮』『夜叉ヶ池』など著名作品の自筆原稿や、美術的な装丁で知られる「鏡花本」の数々、そして愛らしいさぎの小物コレクション他多数の遺品類（非公開）をお目にかけることができました。中でも、今回初めて全容が再現された「鏡花の書齋」には、文机や草双紙棚、文具など愛用の品々が当時のままに置かれ、見学者に深い印象を残したようです。浪漫と幻想に満ちた作風で、文学のみならず演劇・映画でも常に高い人気を誇る鏡花の魅力を裏付けるかのように、約1,700人の来場者があり、連日盛況でした。



日曜開館 2016年度実施報告



2015年度に開始した秋（11月～12月）の日曜開館（8日間）を、2016年度は冬（12月～1月）に変更して実施しました。1月の入館者平均は845名で、12月の548名と比べずっと多く、1月の試験や論文執筆に向けての追い込み時期に必要なことを実感する結果となりました。

実施期間中の2か月間、前年に引き続き館内でアンケートを実施しました。今回は図書館1階にボードを置いてシールや付箋紙を自由に貼ってもらう形で行ったところ500枚を超えるコメントをいただきました。日曜日の通年開館や24時間開館、過ごしやすい空間を希望する声が多く寄せられました。開館時間の拡大は財源の問題もあり、すぐにお応えすることは難しいですが、できることから少しずつ改善していきたいと思えます。

2016年度の資料移動について

夏と春の2度にわたって、三田から山中湖畔にある山中資料センターに資料を移動しました。これは、今後増加する資料を置くためのスペースを確保するためのものとなります。夏には電子媒体で利用できる洋雑誌、春には議会資料やコレクションとして受け入れた資料、1960年以前に受け入れた旧分類図書を移動しました。今回の作業をもって三田から山中への資料移動は完了しましたが、1月から2月にかけては、図書館旧館の改修工事がはじまるにあたり、急遽、工事エリアに置かれている学部図書の一部や和装本などを一時的に外部書庫へ移動しました。

お 知 ら せ

図書館旧館の改修工事

今年（2017年）2月から、図書館旧館（以下、旧図書館）の改修工事が開始されました。この工事の主目的は耐震補強で、明治45年竣工の重要文化財部分（本体・第一書庫）を中心に行われ、工事期間は約2年間の予定です。

旧図書館は仮囲いがされており、立ち入りできないようになっていますが、実は書庫部分や斯道文庫へは立ち入りができます。北館側の壁面にある入口は、これまで通り使用できますので、こちらから入館してください。

下の2枚の写真は旧図書館地下1階第二書庫の書架撤去前後のもので、こちらは現在工事現場となっています。息苦しいほどに密集していた狭いと思っていた第二書庫が、書架がなくなってみるととても広がったことがよくわかります。



旧図書館の正面入口脇にあった福澤先生の胸像は演説館前に移設されましたが、義塾のシンボルの一つでもあるステンドグラスは、工事期間中は残念ながら見ることができなくなっています。また仮囲いのために旧図書館全体を見ることもかなわなくなっています。少しでも元の姿に触れてもらおうと、メディアセンターでは新館1階ラウンジで、旧図書館の写真などを展示することを予定しています。

なお今後も工事のためサービスが変更になる可能性があります。館内掲示や三田メディアセンターウェブサイトのニュース、ツイッターなどで随時お知らせをしていきます。

みなさまにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

編 集 後 記

三田メディアセンターの広報誌が、装いを新たに「知識の花弁」として出されるようになって5年目に入りました。これを機にページを増やし、より読みやすい紙面を目指してリニューアルをしました。これからも、みなさまに興味を持って読んでいただけるような内容にしていきたいと思っています。バックナンバーはウェブでご覧いただけます。


<http://www.mita.lib.keio.ac.jp/guide/publication/kohoshi.html>

編集・発行 慶應義塾大学 三田メディアセンター
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
TEL 03-5427-1625 FAX 03-5484-7780

発行日 2017年4月1日
印刷 有限会社 梅沢印刷所

<http://www.mita.lib.keio.ac.jp>

Twitter: @Keio_MitaLib

 慶應義塾図書館